広島大学大学院文学研究科　広島大学考古学研究室紀要　第７号、2015年、128頁。

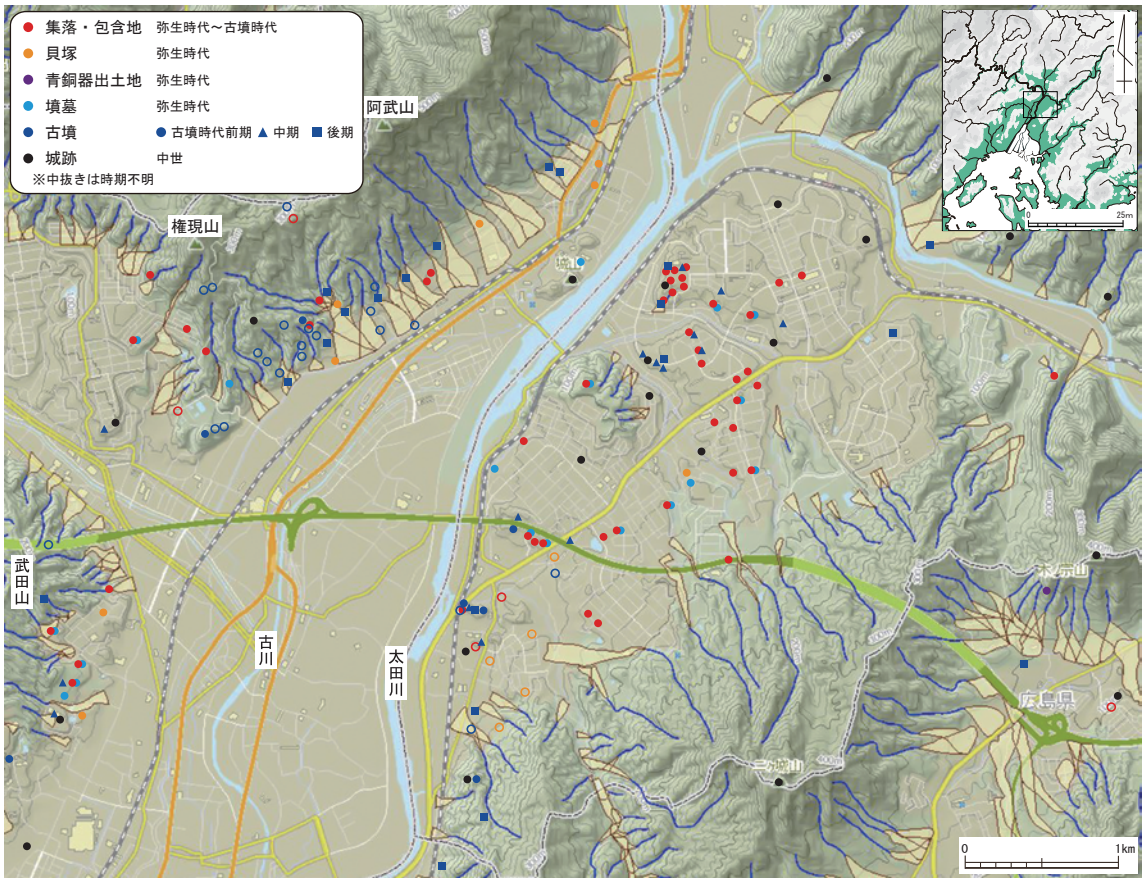
広島市安佐北区における土砂災害と遺跡分布
― 文学部エントランスの展示から ―

昨年の2014（平成26）年８月19日夜半から20日早朝にかけて、広島市では断続的に強い降雨があった。これにより、土石流・土砂崩れ・崖崩れが発生し、死者は過去30年間で最多の74名に及んだ。特に広島市安佐南区八木地区とその周辺では、山地から多数の土石流が流れ下り、山麓の住宅地は甚大な被害を受けた。このような土石流による甚大な災害をうけて、安佐南区と周辺地域における遺跡の分布状況を確認した。その結果、土砂災害が想定される地域には集落遺跡が分布しないことが判明した。

広島市安佐南区の遺跡分布　広島市安佐南区周辺における弥生時代から古墳時代の遺跡の多くは太田川両岸にある丘陵や微高地に分布する。集落遺跡は太田川左岸の低丘陵上に集中し、古墳は時期によって築造場所が異なるものの、その多くが権現山、阿武山南麓や武田山東麓、そして太田川左岸の低丘陵上に立地している。

今回土砂崩れによる被害が発生した地区には集落遺跡はほとんどなく、古墳も当然ながら尾根に沿って存在している。また、太田川右岸や古川両岸の低地は氾濫原のため、遺跡がみつかってはいない。河川の氾濫を避けるために、周辺の低丘陵や微高地に居住していたものと考えられる。

（野島・市川・平尾）



（土砂災害ポータルひろしま（広島県土木建築局砂防課）より、土砂災害危険箇所を示す地図を引用した。）